

4月から始まります！

白色トレイと紙パックの回収



4月から、白色トレイと紙パックの回収を役場で始めます。それぞれ専用の回収箱を役場正面玄関に設置します。今まで「燃えるごみ」として出していたこれらのごみを、「資源」としてリサイクルすることで、ごみの減量につながります。皆さん、ぜひご利用ください。

白色トレイ

表裏とも白色の食品トレイ
(色がらのトレイは除きます)
※必ず洗って出してください。

紙パック

牛乳やジュースなどの紙パック
(ただし、内側がアルミコーティングしているものは除きます)
※必ず中を洗って、切り開いて出してください。



●回収場所
役場正面玄関

●開設日
月曜日から金曜日
(祝祭日を除く)
午前8時30分から
午後5時15分まで



今までどおり町内会(自治会や女性団体)での独自回収や、近くのスーパーなどでも白色トレイや紙パックを回収されていますのでご利用ください。

◆問い合わせ先

住民課 生活環境交通担当
☎ 6578 有線 7784

感雑向綿

日野町長 藤澤直広

暖冬から早春へ、梅の花がほころび季節は巡ってきまです。気候だけでなく温かい社会をつくるのが本当に求められています。

民間保険会社が実施しているサラリーマン川柳コンクール作品の中に、「この景気 回ってこないぞ 給与には」というのがありました。「働いても働いても、生活保護水準以下の収入しか得られない貧困層」を意味する「ワーキングプア」の存在。若者の半分近くが、パートや派遣社員で年収200万円以下とも言われています。アパートにも住めずインターネットカフェで夜を過ごす人も。そして、そうしたことが他人事ではないことを誰もが知っています。格差を「是認」する社会から格差を「是正」する社会へ転換することが必要だと思います。

自治体の間でも格差が広がっています。都市部では税収が増加していますが地方ではそうはいきません。この格差は住民生活にも当然影響します。

北海道夕張市の財政破綻、放漫

な財政運営だけが誇張されていますが、国や道の責任も大きいと思います。かつて12万人を超えた石炭のまちは1万2千人へ、国の石炭政策の転換によって町は大きく変貌し、その代償が重くのしかかってきました。そこに追い討ちをかけるように、国からの交付税は単年度ベースで32億円も減ったといえます。こうした中で、市民が自分の町を再建しようと立ち上がる姿に共感も広がっています。手作りの成人式は多くの国民の感動を呼びました。自治とは住民が自分たちのまちを大切に思い、自分たちが力を発揮することにあると思います。

2月上旬に開かれた「小さくても輝く自治体フォーラム」で、九州のある役場の若い職員が「うちの町長は『日本から、町』がなくならぬまで頑張る』と言っています」と元気に発言しました。幸い日野町は「小さな町」ではありません。町財政の健全化に取り組む中で、平成18年度も基金(貯金)を増やすことができました。19年度予算では、中学校建設費を予算化することができました。中学校建設へ、そして子どもたちの笑顔があふれるまちを、皆さんと一緒につくりていきたいと思っています。